

国立文化財修理センター（仮称）整備の 実現可能性検討に伴う試掘調査について

1. 趣旨

国立の文化財修理センター（仮称）整備の検討に当たり、京都国立博物館の敷地内が候補地となり得るかどうかを検討するため、当該地を試掘調査し、地下遺構の状況を把握するもの。

2. 試掘調査概要

- ・試掘調査場所 京都国立博物館 南側駐車場（調査区3区を設定）
- ・試掘期間 令和5年6月26日（月）から9月29日（金）まで（予定）
- ・調査報告書刊行 令和6年3月29日（金）（予定）
- ・調査実施者 （公財）京都市埋蔵文化財研究所

3. 調査結果の速報

別添のとおり。

4. 今後の予定

今後、調査結果の速報を踏まえ、遺構を可能な限り保護した上での建設が技術的に可能かについて検証を行う。

国立文化財修理センター(仮称)整備の実現可能性検討に伴う試掘調査

遺跡名 法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡

所在地 京都市東山区茶屋町527番地

調査期間 令和5年6月26日～同年9月8日(調査終了後、9月末まで復旧作業)

調査面積 171m²

調査機関 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

1. 調査地周辺の歴史的環境

今回の調査では、法住寺殿跡と方広寺跡に関連した遺構の存在が想定される。法住寺殿跡は、後白河上皇が造営した院御所〔永暦二年(1161)初見〕である。南殿と北殿で構成され、七条大路延長道路より南側が南殿、北側が北殿に推定されている。北殿の東側には、養和元年(1181)に新御所が造営されており、調査地は、この新御所の一部、および七条大路延長道路に位置する(図2)。

安土桃山時代・江戸時代には、大仏殿の南側に調査地が位置する(図3)。大仏殿は、文禄四年(1595)に豊臣秀吉が創建し、慶長十三年(1608)に秀頼が再建に着手したことで知られている。秀頼の時期には、大仏殿の寺域は、南側の蓮華王院を含めて拡大され、後に方広寺として寺域の整備がなされている。調査地は、南中門(大仏殿院南門)から南へ伸びる路と七条大路延長道路に画された地点にあたり、方広寺内に所在した日巖院・宝生院の推定地に位置する。

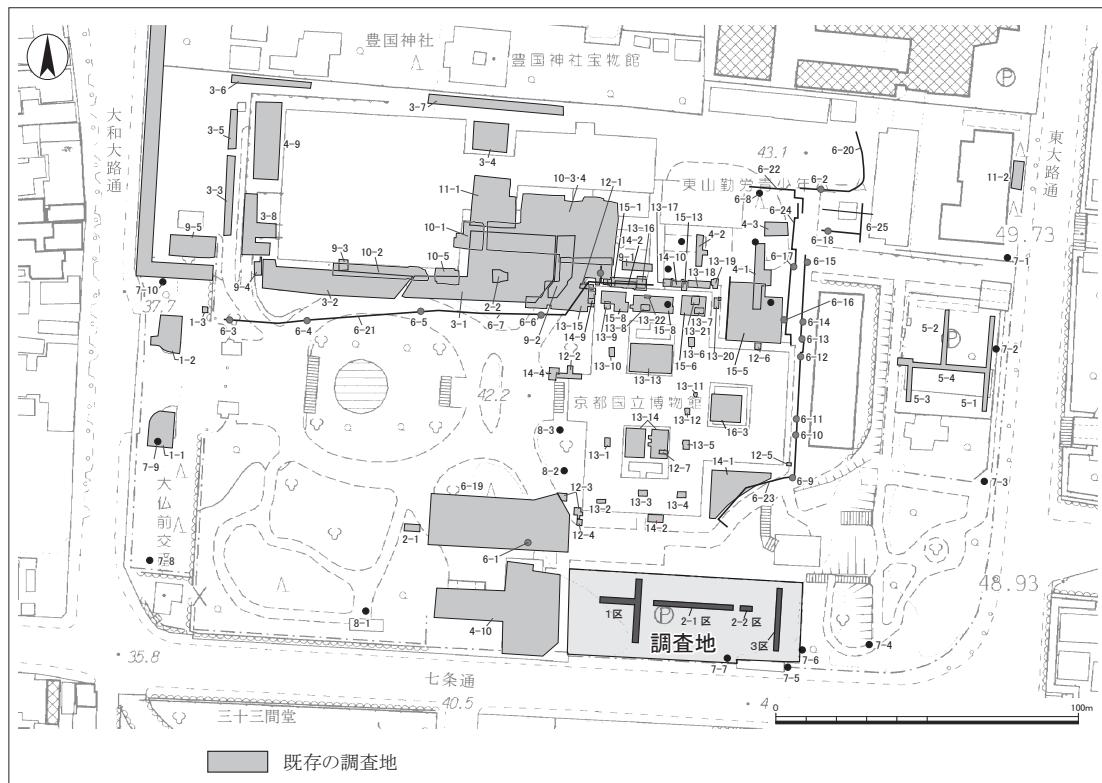


図1 既存の調査地点と今回の調査地点 (1:2,500)

2. 基本層序

1区から3区の全体を通して、基本層序は、1～6層に区分される（図4・5）。1層は、アスファルト・コンクリート舗装より以前の旧表土層で、博物館造成時の堆積に比定される。2層は、東端の3区と、2区西半から1区西端にかけて分布する。後者では、拳大程度のブロック状の粘質土を多く含有し、人為的な整地土とみられる。この整地は、およそ近世末・明治初期に当たる。3層・4層は、遺物包含層である。4層の出土遺物は、近世に比定される。5層は整地層で、16世紀末・17世紀初めに比定される5a～5c層、13世紀後半以前に比定される5d層に区分される。いずれも2区で検出した部分的な整地層である。6層は、当該地周辺の地形を形成する基盤層である。

3. 主な検出遺構

検出作業は、5層（部分的な整地土）・6層上面を同一面として実施した（図7・8、平面図2）。なお、この検出面よりも上層の遺構、および1区・2区で検出した近世末・明治初期の整地土の分布範囲は、別に示した（図6、平面図1）。遺構番号は、1区を100番台、2区を200番台、3区を300番台で表記した。以下、時代ごとに主な遺構を列挙する。

〔近世末・明治初期〕

2区西半から1区西端にかけて整地土を検出した（図4・5、第2層）。恭明宮造営時に伴う整地の可能性を有する。土坑220はこの整地土を掘り込む。

〔近世後半〕

池状遺構101（湧水顯著）、土坑102、土坑（水溜め状の遺構）137・138、掘立柱建物147、柵列145・146、溝203・207・221、土坑201・202・204・208、掘立柱建物322

〔安土桃山・近世前半〕

溝214・215

〔鎌倉時代〕

溝111（13世紀前半頃埋没）、井戸206（13世後半から14世紀中頃埋没）、井戸302（13世紀中頃埋没）

4. 主な出土遺物

風炉（土坑102）

金箔瓦2片（土坑202、道具瓦か、部位不明）

大仏殿所用瓦（土坑201）

平安後期の瓦類（溝111、井戸206、井戸320）

木製品の端材（檜扇等、井戸320）

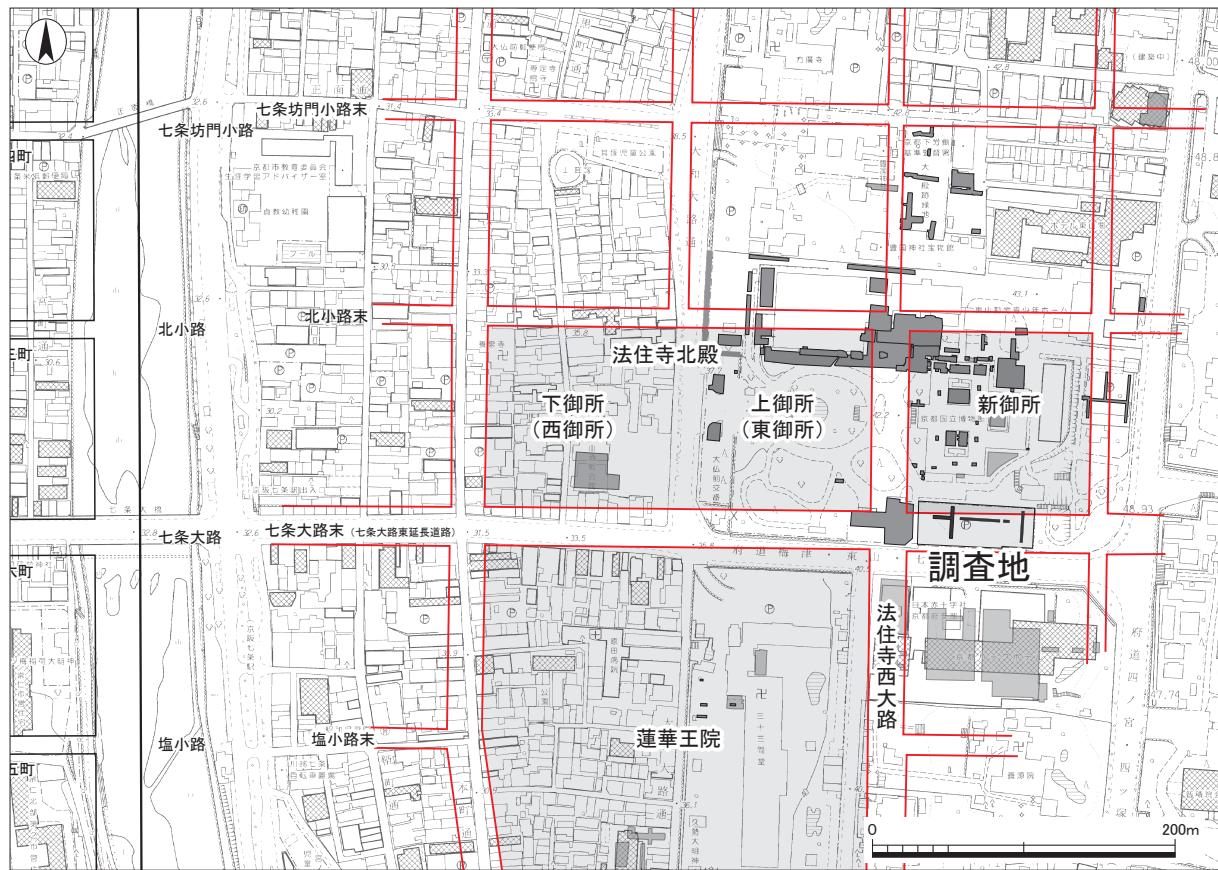


図2 調査地点位置図、院政期 (1 : 5,000)

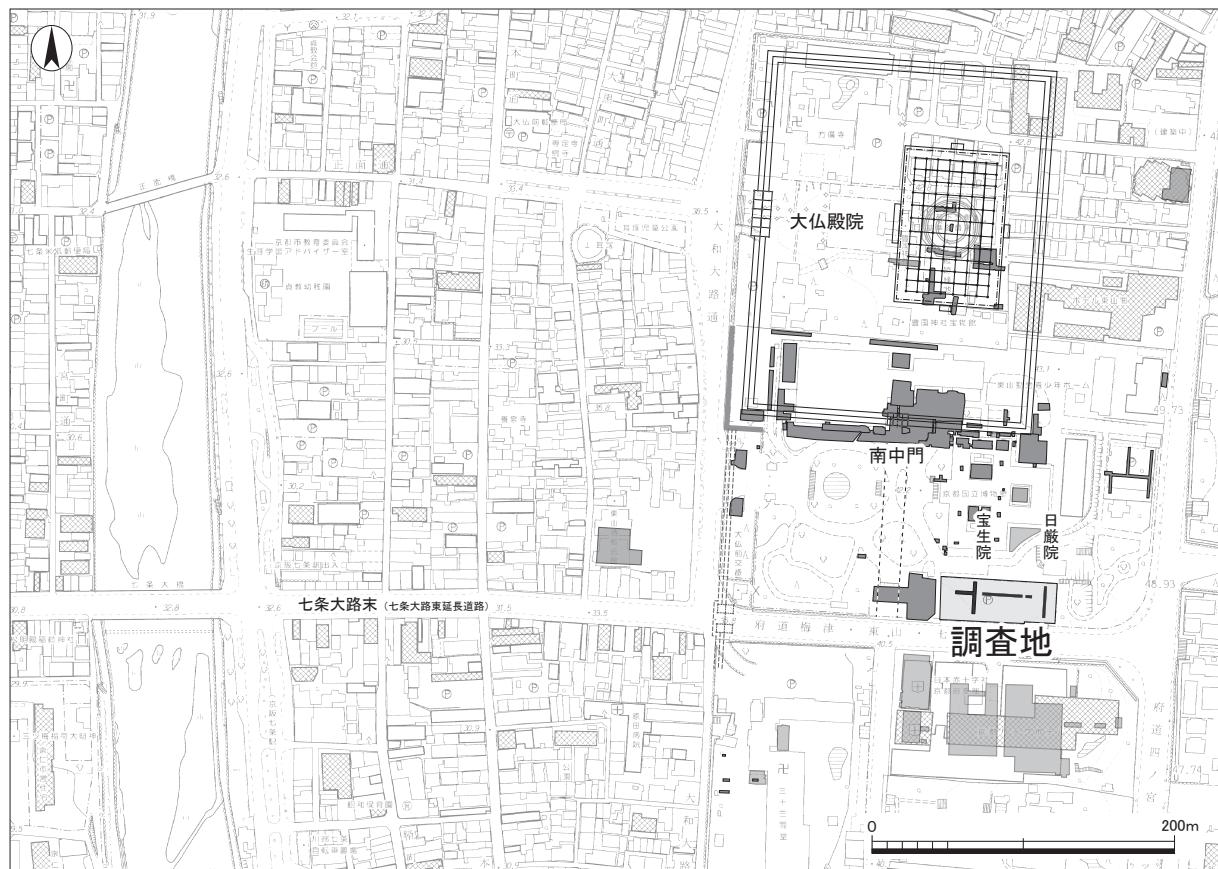


図3 調査地点位置図、安土桃山・江戸時代 (1 : 5,000)

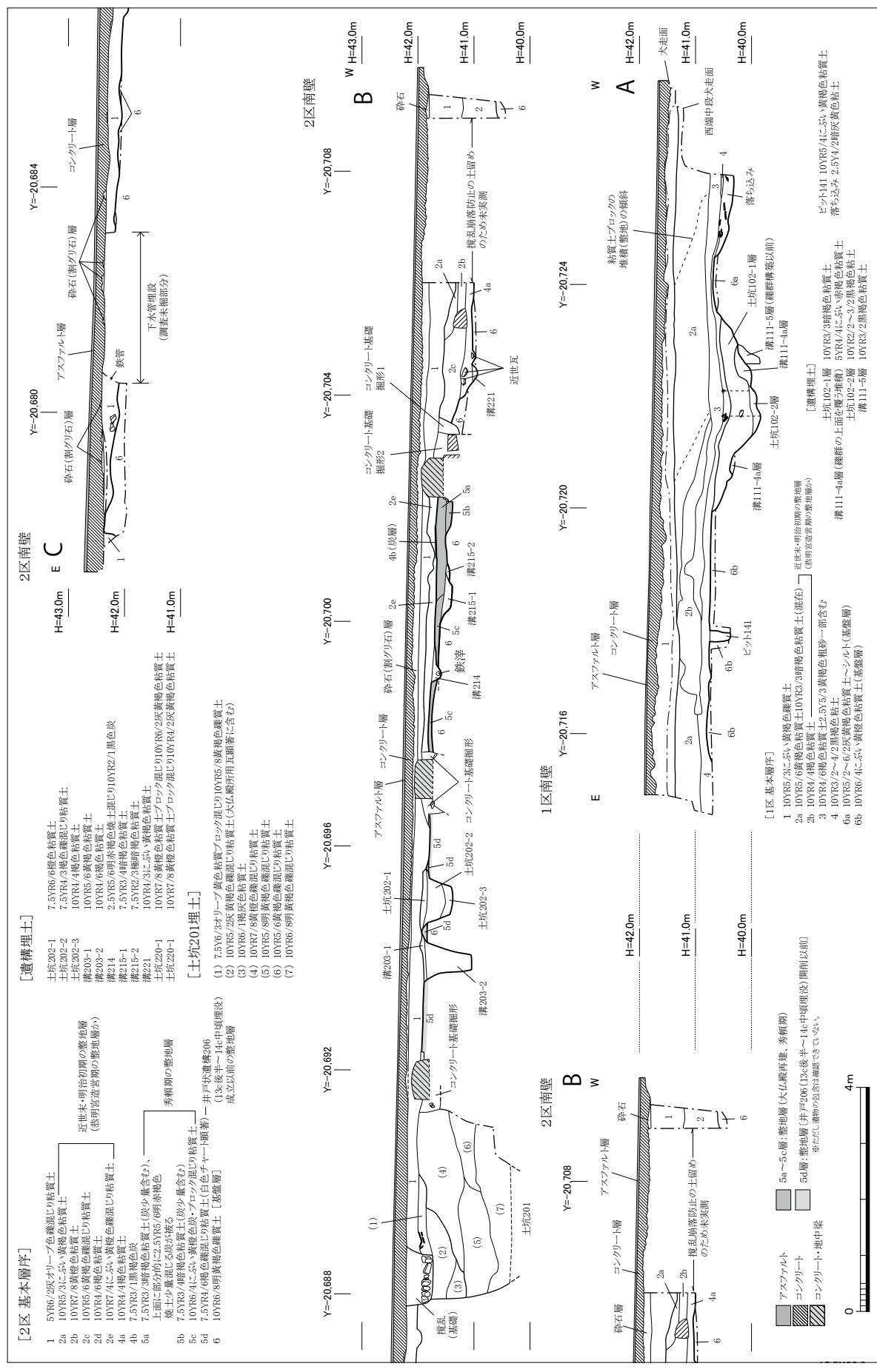


図4 断面図1 1区・2区の調査区南壁 (1:100)

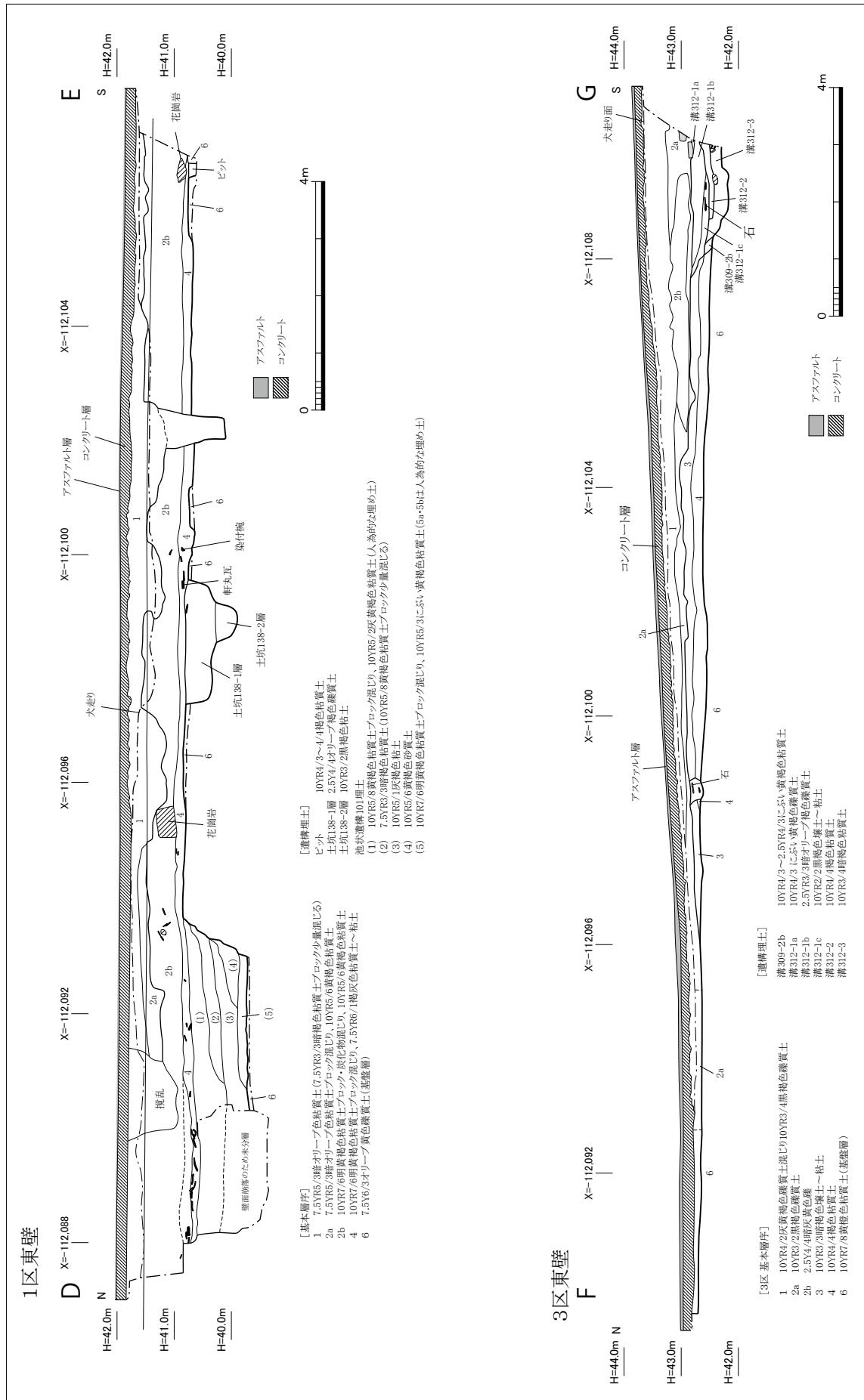


図5 断面図2 1区・3区の調査地東壁 (1:100)

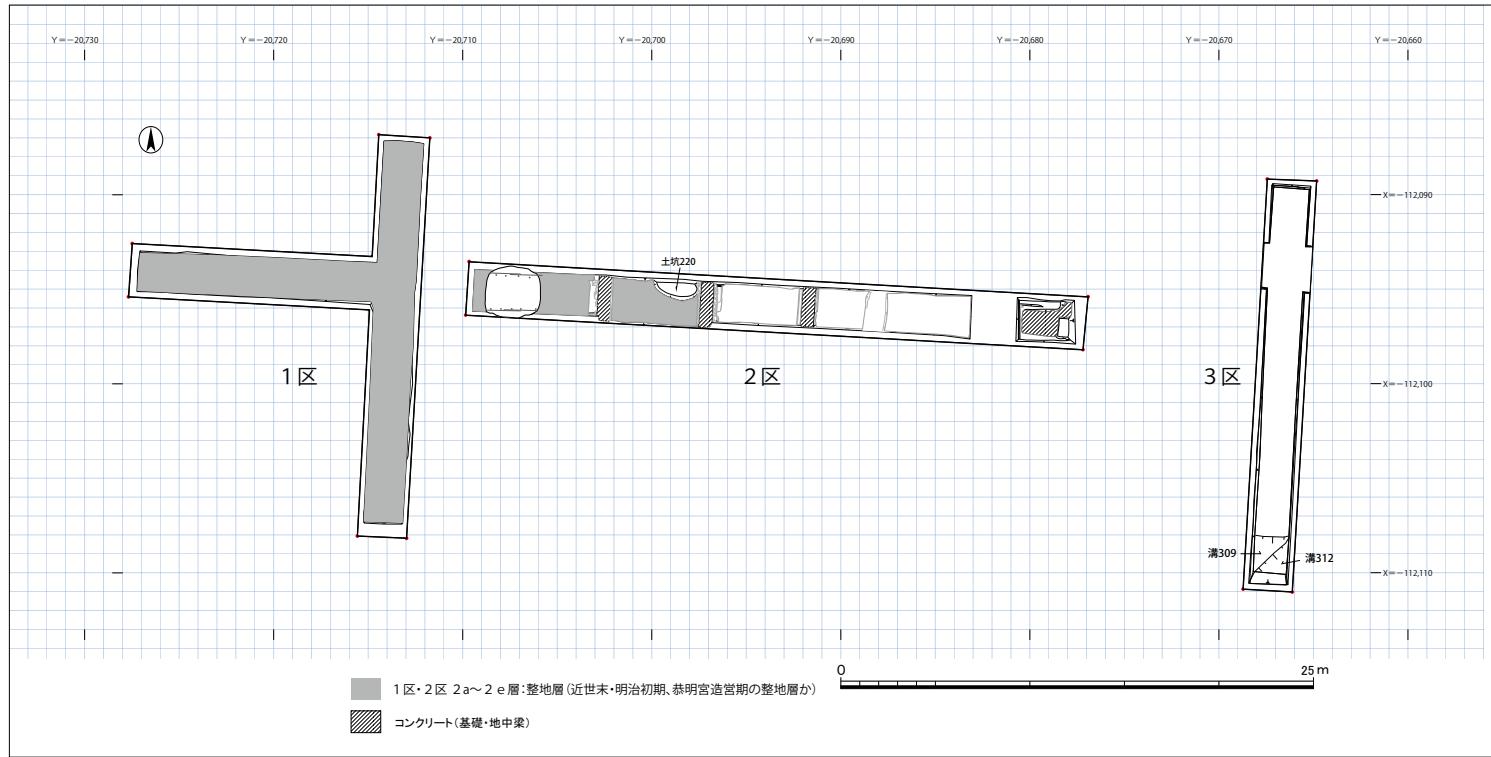


図6 平面図1 近世後半以降の整地土の分布 (1:400)

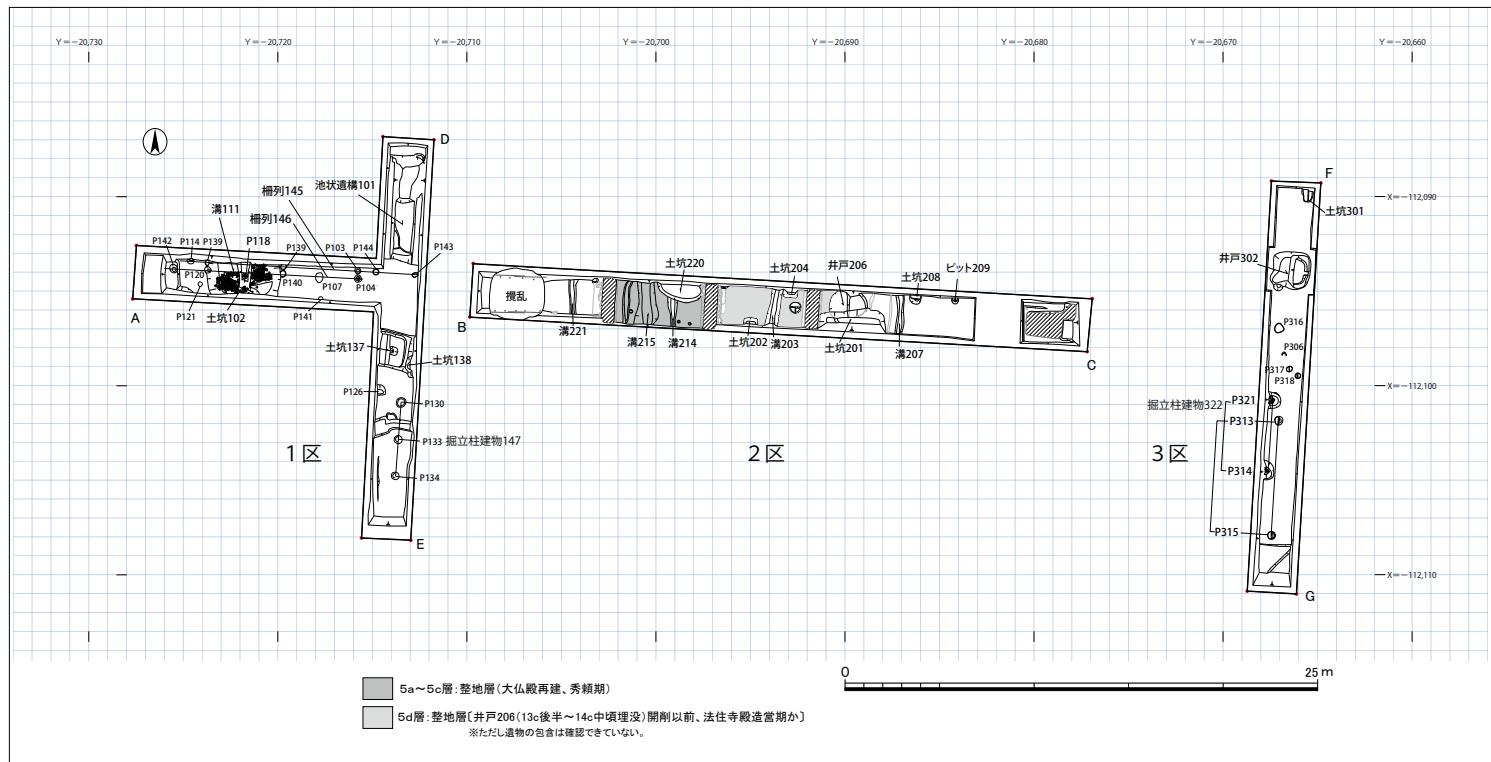


図7 平面図2 基盤層・整地土上面検出遺構 13世紀から近世後半 (1:400)

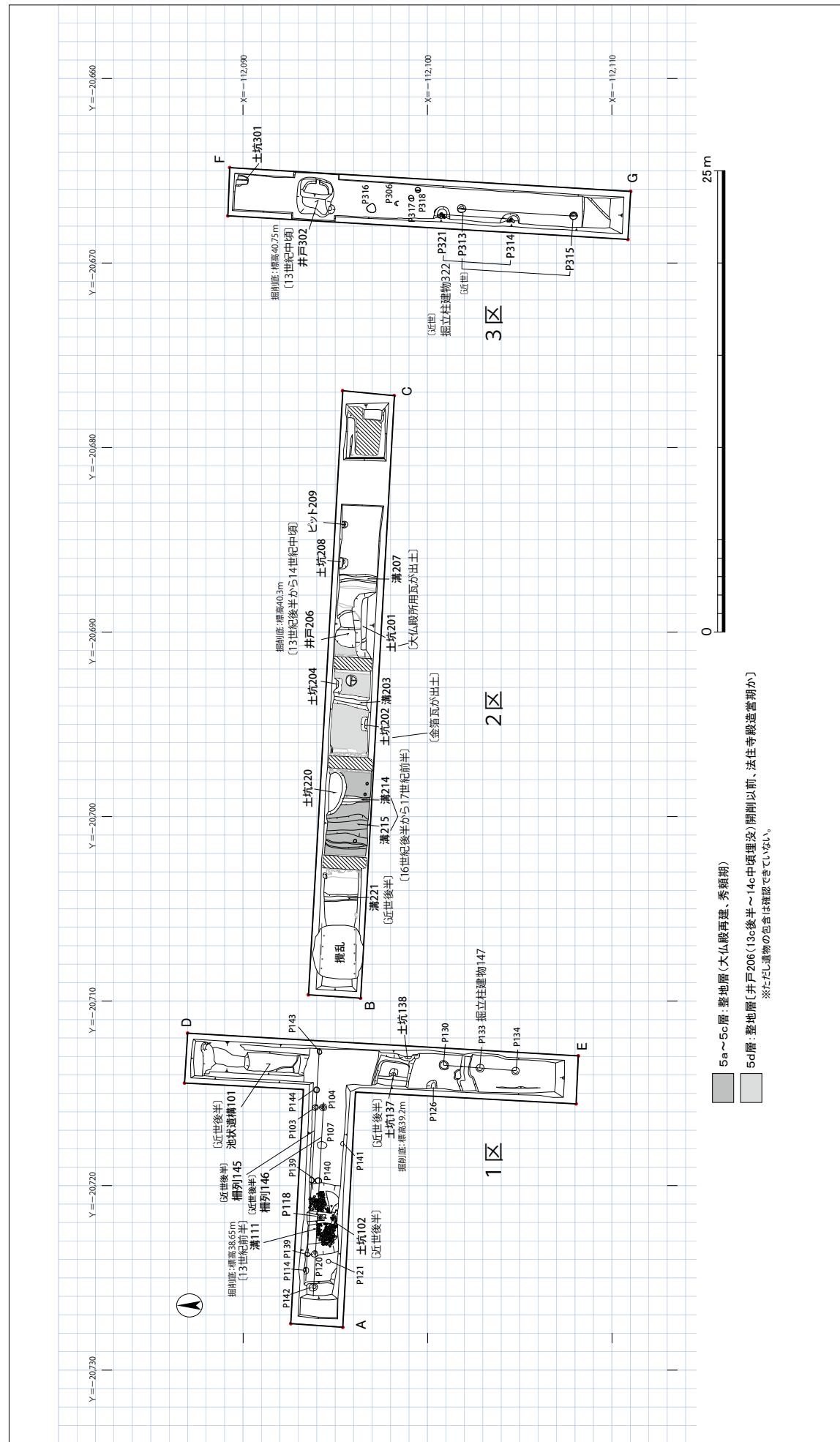


図8 平面図2 基盤層・整地土上面検出遺構 13世紀から近世後半 (1:300)

※ただし遺物の包含は確認できていない。

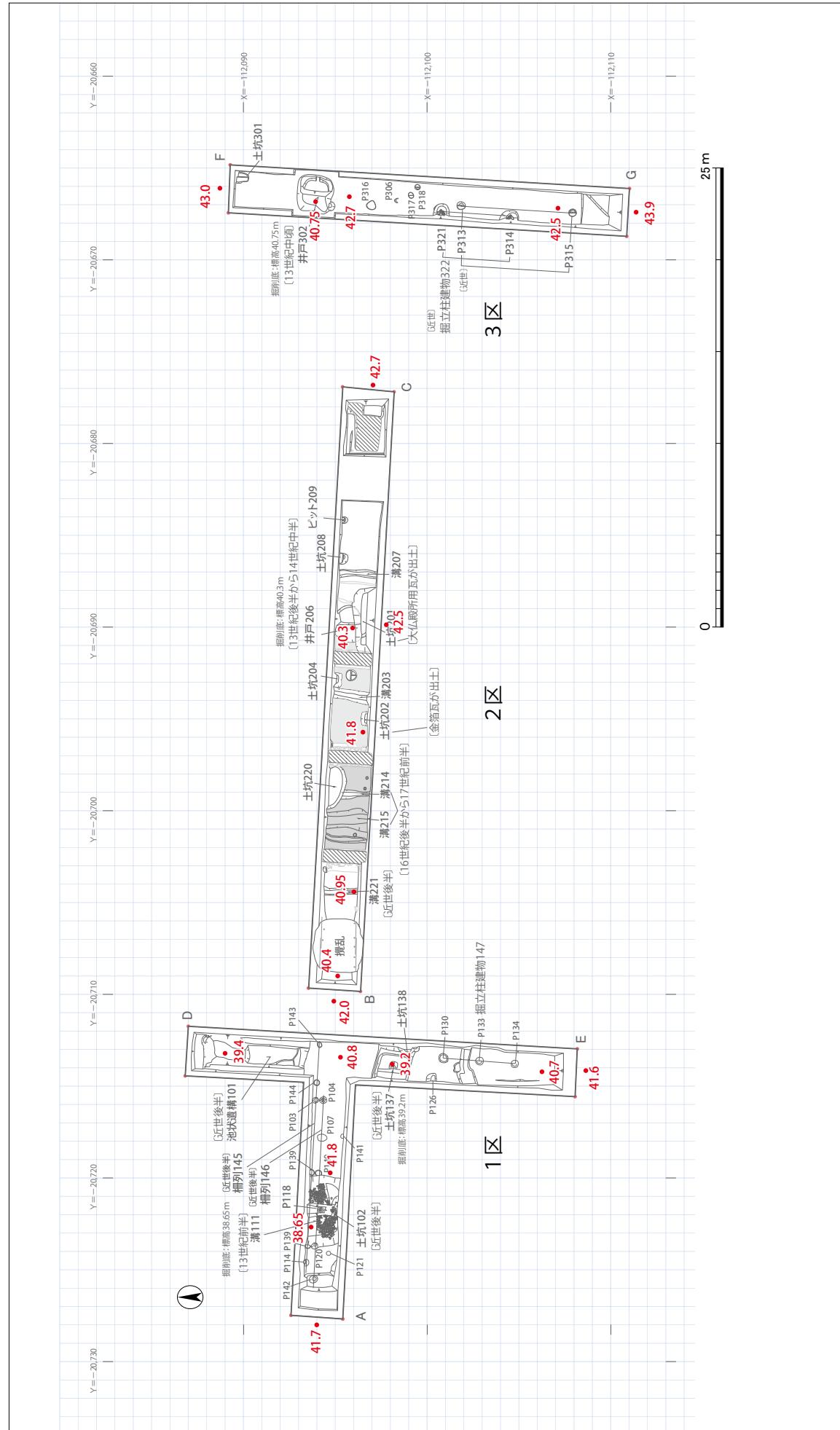


図9 平面図3 標高値 (1 : 300)

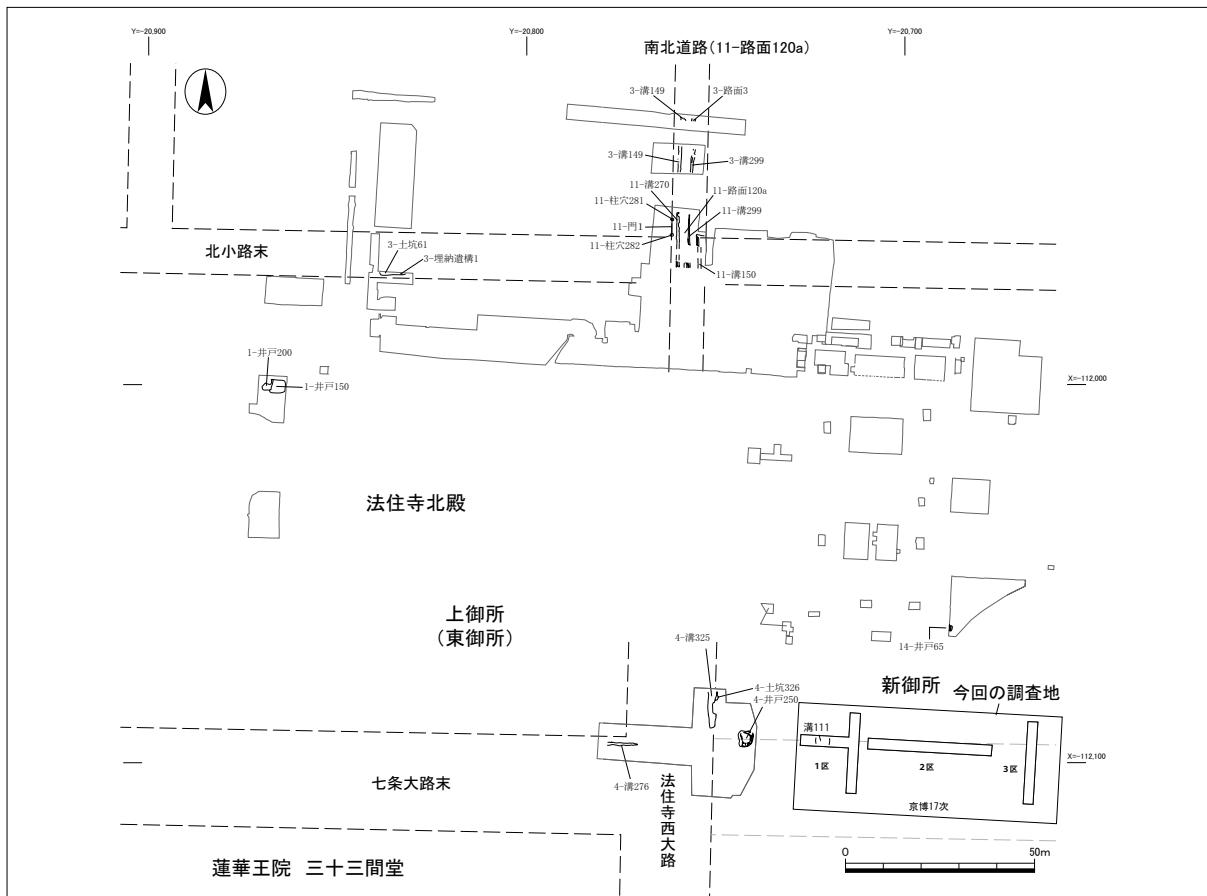


図 10 平安時代の遺構 (1:2,000)

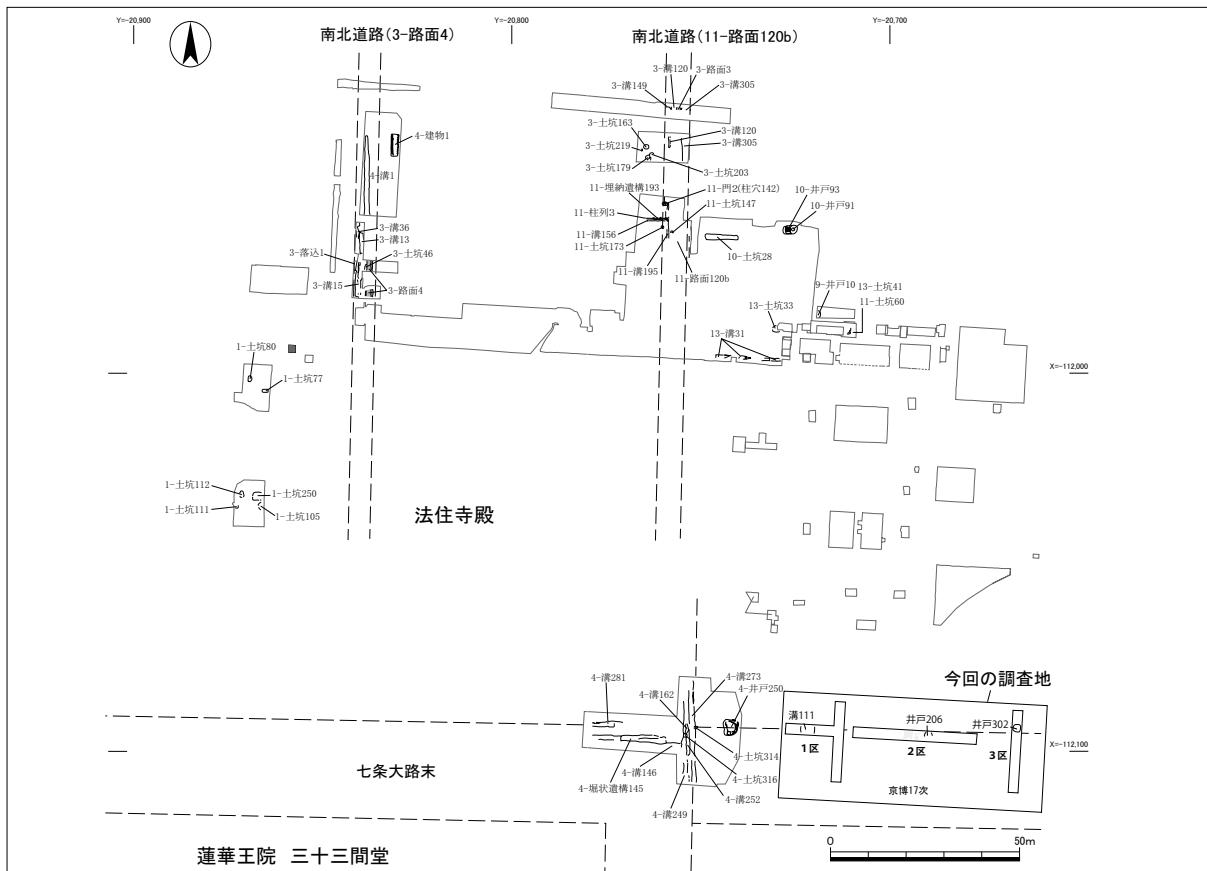


図 11 鎌倉・室町時代の遺構 (1:2,000)

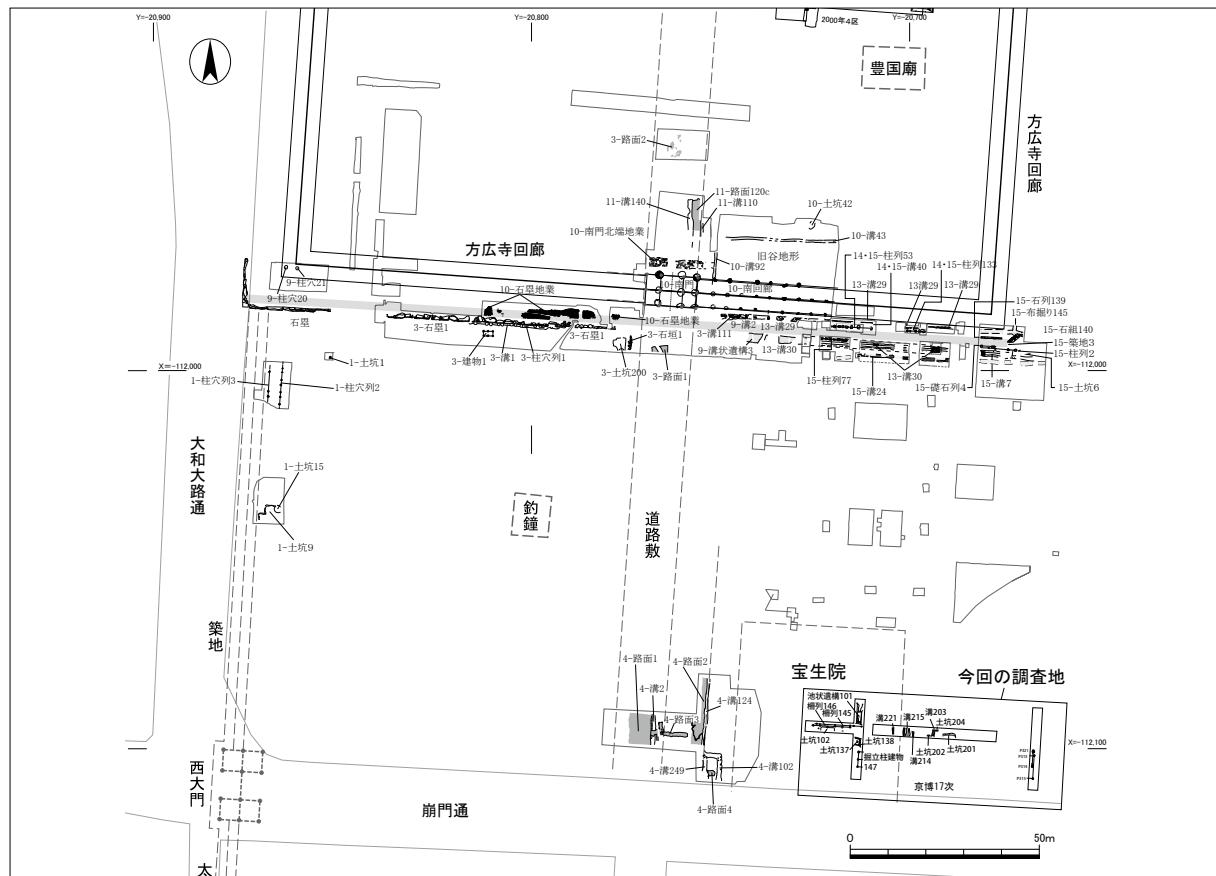


図 12 桃山時代・江戸時代の遺構 (1 : 2,000)

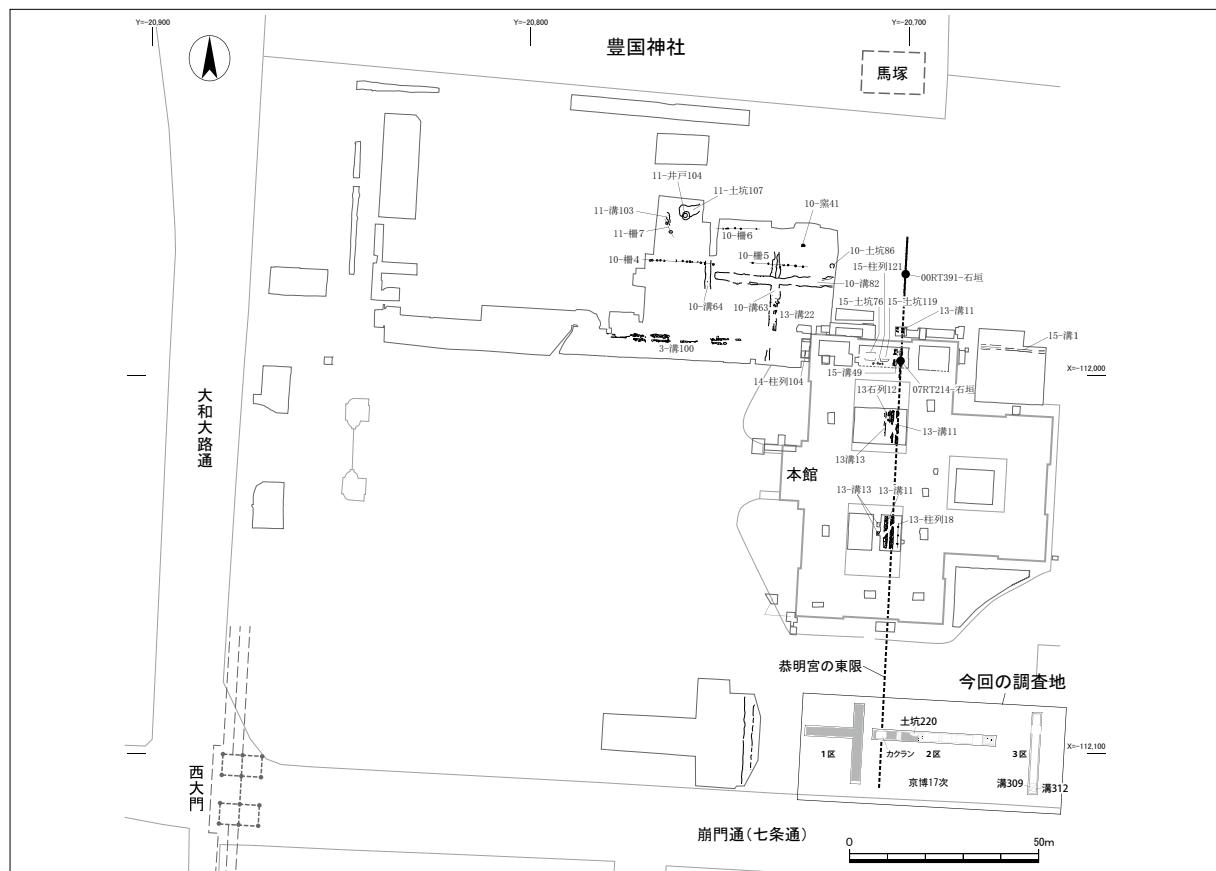


図 13 江戸時代後半・明治時代初頭（恭明宮）の遺構（1:2,000）



1. 調査地全景（東から）



2. 調査地全景（西から）



1. 1区南北調査区南半（北から）



2. 池状遺構 101（北東から）



3. 1区東西調査区（北東から）



1. 土坑 102 を掘削した状況（北から）



2. 溝 111 の礫群の検出状況（北から）



1. 2区全景（北西から）



2. 土坑 201・井戸 206（東から）



3. 土坑 201・井戸 206（南から）



1. 南壁断面 (北から)



2. 溝214 鉄滓出土状況 (北から)



3. 秀頼期の整地層 5a 層 (北から)



4. 溝215周辺の遺構 (南西から)



1. 3 区全景 (北から)



2. 柱穴 321 と柱穴 314 (北から)



3. 井戸 302 (北西から)